

中斎塾 東京フォーラム  
平成 30 年度 第 11 回講話

平成 30 年 12 月 8 日  
於 湯島聖堂

【素読論語】

＜衛霊公第十五＞

【二九】子曰く、<sup>あやま</sup>過ちて改めざる、<sup>これ</sup>是を過ちと謂う。

【三〇】子曰く、吾<sup>われ</sup>嘗て終日食わず、終夜寝ねず、以て思う。益無し。学ぶに如かざるなり。

【三一】子曰く、君子は道を謀りて食を謀らず。耕すや<sup>たがや</sup>餼<sup>うえ</sup>其の中に在り。学ぶや<sup>そ</sup>禄<sup>うち</sup>其の中に在り。君子は道を憂えて、貧を憂えず。

「子曰く、過ちて改めざる、是を過ちと謂う」

ちょっと目を閉じてください。ここ 1 年間で、過ちをしたな、ミスをしたな、失敗したなと、つくづく反省している方。はい有難うございます。目を開けてください。

「子曰く、吾嘗て終日食わず、終夜寝ず、以て思う。益無し。学ぶに如かざるなり」

目を開けたままで結構です。一所懸命に本を読む。またはテレビやネットを見る。何でも良いから、何かに集中して一所懸命に行い、はっと気がついたら夜が白々明けた。そういう体験のある方。もうひとつ。はっと気がついたら三食とってなかった。一食ぐらいなら結構いると思いますが、三食抜いていたという方。いませんか？…大概倒れますよ。何か体がぶるぶる震えてきて立っていられなくなった。思わずへたれこんでしまった。どうして今日こんなに調子が悪いのか。あっ、ご飯食べていなかった。食べたなら元気が出てきた。そういう体験はありませんか。

私は家内とお喋りをしていたら、体が震えてどうにもならなくて、今日はどうしたんだろうと思ったら、ご飯を三食とっていなかった。そしたら夜、体が震えてきたということでした。

「子曰く、君子は道を謀りて食を謀らず。耕すや餼其の中に在り。学ぶや禄其の中に在り。君子は道を憂えて、貧を憂えず」

皆さん自分自身を磨くことをやっていますでしょう。それで今年は、よく自分磨きした

なってしまうかどうかです。「貧を憂えず」この年も儲からなかったな。何でお金の神様は私のところに笑顔を向けてくれないのだろう。今年 1 年よくそういう考えが頭をよぎったという方。はい有難うございます。そう思っていると、お金は寄ってきません。

## 【テーマ】

### 「悟り（木内信胤）カルロス・ゴーン事件」

今日、猪瀬理事長が 11 年間の集大成の言葉を言いました。猪瀬理事長に対するエールみたいなものもありますけれど、先ほど「話まとまりませんで」と言いましたでしょう。あれ嘘でしょう。

猪瀬理事長一本当ですよ。

私はよく纏まっていたな、良い話をしたなと思って聞いていました。そうしたら最後に「纏まりませんで」というから、ちょっと肩すかしをくらったような気がしました。

木内信胤先生が言われた科白で、私は東洋文明と西洋文明の両方を吸収した。それで西洋文明の間違いを正すことを意識している。木内信胤ただ一人にて、その間違いをしないように常に意識して、大きな会場で何か挨拶をしなければならないときに、心にもないことを私は言わない。私より先輩の方がおられる。私より素晴らしい方々が沢山おられる中で若輩の私が前に出て先に御挨拶させていただくのは、こういう理由で御挨拶させていただくことと思いますが、というふうな挨拶は一切しないことにしている。「お歴々の方の中で私が最初に御挨拶させていただくなんて」と言っても、腹の中ではそう思っていないから、当然顔に出るはずだ。腹と顔がまったく違うことを言うことは体によくはないから私は言わない。これは東洋文明、日本文明のしからしむことだと言っている。そういう点で言いますと、もしも纏まらない話をと言うけども、それは自分で理想を上の方にもって行って喋ろうと思っているからです。もう少し下げて喋れば良いと思います。さっき、さらけ出すと言われたけど、さらけ出せば良いと思います。猪瀬理事長の話聞いていて、今日は良いこと言ったなと思う方どうでしょう。

（たくさん手が挙がる）

はい有難うございます。ということですので、学ぶことの大切さを中斎塾フォーラムで覚えたと言われた。これは体に浸み込んでいる話です。論語の中に「**学びて思わざれば則ち罔く思いて学ばざれば則ち殆し**」という言葉があります。学ぶことの大切さを覚えた人は、思うことの大切さを身に染みて覚えなきゃいけない。だから理事長を退任したからといって、肩の荷が下りたではなくて、学ぶことの大切さを身につけた次も論語は書いてあります。その次は「思う」ことである。これは論語を勉強してきた人。それから今日の素

読で、「吾嘗て終日食わず、終夜寝ねず、以て思う。益無し。学ぶに如かざるなり」これは初心者向けに孔子が言ったということです。論語を勉強する、学ぶ時に、初心者とある程度覚えた人間と、もうここまできたという人間に対し、人によって話を変えています。入門編の科白です。孔子も、はっと気がついたら白々明けるまで勉強をしていたと思います。

横の知識を増やせといっていますけれど、知識がほとんど無い未熟者がいくら考えたってなんの役にも立たないということです。もっと知識を増やなさいという。

例えばカルロス・ゴーン。これはゴーン事件だと私は思っています。ゴーン事件を見る時に、本質・大局・歴史の視点でみる。表面に出てきた事だけ見て一所懸命に思う。一所懸命に考えたって何の役にも立たない。何故ならば、知識が不足しているから。ゴーン事件が出てから、新聞のゴーン関係はずっと読みました。色々な新聞を見ると色々なことが書いてありますが、論語の中に書いてある「終夜寝ねず、以て思う。益無し」なんの知識も無い人が、いくら考えたって屁の役にも立たんわいと孔子が言っていると私は理解する。「学ぶに如かざるなり」だから、お前さんはもうちょっと横の知識を増やなさいと言っている。それで、思うことの大切さというのは「横の知識」ゴーン事件でいえば、どんどん色々なことを調べてみるとかなり知識が入ってきて、事実関係が頭の中で納まってから考えだせば、それなりの何かははっとしたものが浮かびます。気づきがでます。

例えば、お隣の建物には写真や文章がいっぱい飾ってありますが、一所懸命に読むが1回見ただけでは分からないし、忘れてしまう。3回、4回、5回と同じものをずっと見ていくと、何でこの写真を貼ったのだろう。何でこの文章を書いたのか。そのうちこの文章を書いた人は、そのことあまり知らないで書いたなとかね。余計なことまで感じるようになる。ということで、思うことの大切さで、私が良いなと思ったのは猪瀬さんの徒弟制度の話です。今は知らない人が多いですが、5年修行して1年お礼奉公。そんな馬鹿な話があるかと今のは思うわけです。例えば、毎月2日間のお休みで年間26日のお休みと盆とお正月でしたっけ。お給料はありません。教えてあげるのだから、お小遣いあげれば大喜びなさい。そういうことを今の就職活動で出したら、1人も採用できないだろうと思います。それで、よく覚えていないからといってビンタ喰らわす。今はすぐ暴力行為で摘発されますよ。でも、その中から天才が現われたという話をしました。さっきは謙遜して言わなかったのですが、それだけの技術力を神様と言われた匠が認めたわけです。それを今は猪瀬さんが、ここからは文句。何で活かさないのかと思います。多分ね、この「思う」が少なかった。学ぶことは十分やった。今は人生100年の時代ですから、20年や30年と言おうとしたけれど、105歳まで生きるのではないですか。前に出て話をされる時に、徒弟制度の話されるといいと思う。世の中のルールは時代時代によって変わるけれども、根本的な普遍の原理は変わりません。

先ほど清水先生と階段の所で出会いましたが、お医者さんのお仕事は人が死にたくない、生きたいという気持ちを活性化させて、それで人が生きるということ。病気に罹ったら、それをほねのけて生きたいと思う気持ちを手助けして、気持ちをそういう方向に向けてい

く仕事だと思います。サブとして薬とか手術があるのではないかという気がしています。それがお医者様のされる一番根本的なものだと思います。

ところが昨今の医者、大体みなさんも経験している通りで、顔見ないですね。顔を見ないで、検査、検査、検査。何なんだろう。酷いお医者さんは検査して最初から最後まで顔も見ないでパソコンだけ見て言う。顔を見ないでパソコンと会話するお医者さんは、とても増えた。どこかおかしいんじゃないのと思う。それで佐藤一斎に関する本を書きました。佐藤一斎は鍼が好きだという。湯島の聖堂で鍼灸祭やっています。

佐藤一斎曰く、私は鍼が好きで体のあちこちに刺す。私は鍼は怖い、痛いと思うから知り合いに鍼灸師さんがいるけれども一度もやってもらったことがないが、『言志録』に箴言は鍼。箴言は心の病を治療する鍼というふうなことを申しております。佐藤一斎はまた別の時にします。

そうなりますとね、学ぶことの大切さ。これ猪瀬理事長の話の続きですが、思うことの大切さは条件があります。横の知識をたくさん身に付けたい人が思うことができる。思ったら考えると、考えた方がよろしいと感じます。ただ「思う」と「考える」は、厳密には違いますけれど、でも今は同等で使います。前から言っていることですが、どんどん横の知識が増えて増えてたくさん増えると、臨界点に達して爆発して知恵が生まれる。爆発するとき、一流の人は横を広げて横の知識だけでも一流と言われます。本人は一流とは思わないでしょうけど。…今は思うかもしれない。ただ超が付くと、超の場合は縦の学問が入ってないことには超にはなりません。縦の学問はどうやって身に付けるか。学んだだけでは身に付きません。どこかではっと気づかなきゃいかん。どこかではっと気づくためのものは三つ。ここで佐藤一斎の師を選ぶ条件の三つです。

第一は天地を師とする。天地自然を師匠とする。天地自然の中において、どこかではっと気づく。そういう体験があって初めて縦の学問に触れる条件が生まれる。

次は素晴らしい人格を持った人物に、はっと気づき出会ったら、それは縦の学問に触れる入口に立ったと思います。

最後は素晴らしい書物に出会ったら、素晴らしい師匠にめぐりあったということで縦の学問を学びたいとなる。学びたいと思うのは、どこかではっと気がつかなければ、なりはしないです。

それではっと気づきがあると、縦の学問がもう知りたくて仕方がなくなる。その中で超一流になるというのは、どう考えても、木内信胤先生の言われた総合的直観力が身に付いた人は超一流だと思う。総合的直観力。

『悟りと発見』中山正和さんの書いた本がとても分かりやすかった。この人が良いと思ったのは、難しいことを分かりやすく書いていたからです。悟りとはどういうものか、悟りと直感について、結構わかりやすく書いています。

## 【紹介書籍】

『木内信胤語録』 三人会編集

木内信胤先生の話でいくと、「人間社会は悟りによって向上する」と、いわれます。悟りによって向上するのであって、悟らない民族は滅びます。その民族が、悟った人が出てくるのは時代背景もあります。お釈迦様だって、そういう時代背景でやっぱり生まれたのだらうという気がします。だいたい同時期です。同時期というのは今年同じということではなく、100年、200年ぐらいの単位で、文明論でいけば同時期です。お釈迦様もキリストも孔子も。では悟りというのとは何か。木内先生流に言えば、はっと思うことが悟りといえます。何かにはっと思う。気づく。その繰り返し。

ここで良い論語があります。「子曰く、過ちて改めざる、是を過ちと謂う」酷いのは、失敗したなと思ったときに、他人に責任を転嫁する。間違ったときに、反省して次に繋げようという気持ちになって、良い解決策を見つければ、あれはミスをしたと素直に理解しなさいと書いてある。今日の論語は良い科白がいっぱいあるね。失敗の対応の仕方。

「道を謀りて食を謀らず」君子は自分を磨くという道は一生懸命やるけれども、美味しい物を食べようということあまり考えない。農業やる人は一生懸命農業のことを考えるけれども、不作の時には餓えることもある。一生懸命学んで、今でいけば良いところに就職していればお給料は入るから食べられる。君子といわれるような人間は、周りの人たちのことも考えて、一生懸命人間としての道を進めるように周りの人も含めて気にするが、貧乏になることはちっとも気にはしないと考える。自分が貧乏かどうかということは、あまり気にしない。

お金が入ってこないことをあまり気にしないでやっていると、どうにか普通に回ってくるものだと。でも生きている間に回ってこないというのも当然ありますね。

木内信胤先生が面白かった。これも何回か話していますが、講演を頼まれて行きたくないところがある。今、木内は忙しいので無理やり調整すると、あちこちに不義理が出ると言い、講演料は500万ほど頂けますかと言う。そうすると、今回は諦めましょうとなります。それでいて本人は行きたいと思う所は講演料いらぬよと言い行く。私共がやっていた悟道会に木内先生が来て頂いたことがある。いくらか出しましたが、3万円ぐらいだったかな？覚えてないですが、お金要らないよと言うから、交通費ぐらいは出した記憶があります。ということで、木内信胤先生はお金のことは、ほとんど気にされない先生でしたが、特殊です。木内信胤先生は岩崎弥太郎の孫で、孫の人たちが困ったときにお金を注ぎ込むための機関がありました。先生が関係している団体の運営費が1千万ぐらい足りない時に、木内が頼むと言っていた、で、資金繰りは終わり。残念ながら木内孝さんの時代にはありません。木内孝さんがアメリカから帰ってきて、自分が世の中の為になることをやろうと思っていたら日本中から寄付が集まると思っていました。しかし日本は寄付が集まらない。何故だと考えたら、日本の寄付に対する制度がアメリカとまるで違うことに気がつかなか

った。アメリカはどんどん寄付ができるような仕組みを作っている。日本は僅か控除の対象になるぐらいです。財団も一般財団法人は寄付して頂いても、控除はありませんから、寄付しなくていいです。公益財団法人は、控除の対象になりますから、湯島の聖堂に寄付してもいいです。

日本の国が寄付に対する仕組みを変えれば、どんどん寄付は集まるだろうと思います。なぜ仕組みを変えないのか。日本の政治家が、はっと気づいてないから。

いま日本の最大の問題は少子高齢化です。日本の政治家は、はっと気がついていないから、子供が少なくなってきました。木内先生がそれについて遠回りの表現で言っています。今の人類は、特に日本はペナルティをうけている。そのペナルティの内容はセックスがつまらなくなったことだ。男も女もセックスがつまらなくなったということは、天地自然いわゆる神からの罰ですよ。男女ともセックスがつまらなくなるのは少子高齢化の入り口。男女間の付き合いもない、結婚はしない。いま結婚をしない人が増えています。結婚は面倒くさいという世代がとて増えた。どんどん少子高齢化に向かっていく。少子高齢化になって政治家が言わなきゃいかんのは、安倍さんが打ち出したもので、現在の経済規模を維持したい。人口も維持したい。そうすると外国人労働者を入れたい。女性に働いてもらいたい。高齢者に働いてもらいたい。ロボットに働いてもらいたい。まがいものを作りたい。でも女性が働く世界というのは悪いことではないと思います。そこの部分だけは、まがいものから外れると思う。そうすると政治家がやるべきことは何か。国家百年の計というのを考えて、何十年先をまがいもので埋め尽くすのではなくて、人口半減になった場合、循環型リサイクル社会をやる。江戸時代を考えれば、日本は循環型リサイクル社会の世界に冠たる国だった。それをもう一度見直そうと打ち出していけば、憲法改正は通るのではと思っています。目の前の小手先ばかり政治家はしている。それは何故か。はっと気がついていない。全員がクビになったら、そこから這い上がる人がいれば良いだろうと思っています。

はっと気づくためには横の知識。それから縦の知識。縦の学問ということだけど、くれぐれも胸に手を置いて考えるのは、はっと気づく瞬間というのは意識して毎日過ごされる。それが良いことだと思います。

### 【時事評論】

私はカルロス・ゴーン事件と言っていますが、ゴーン事件の本質はいったい何でしょう。私が思っていることを申し上げますと、ゴーン事件の本質は何か。これはフランス政府と日本政府の経済戦争だと思っています。火付けはフランス政府です。フランス政府の大統領が、このままだと大統領を降ろされる可能性が高い。どうもそれが私的な欲望が目に見えていて、飾りで失業対策や雇用の確保を掲げているが、たまたまゴーンさんが任期切れ

になる。それで「ルノーのトップを続けたいか」と聞くと、ゴーンさんは「続けたい」となり、ならば「ルノーが日産を早く吸収合併しなさい」となる。しっかりフランスの大統領は自分のルノーに対する発言力を具体的に増すように、そのための法律を作った。それで株も買い増した。ルノーの中での自分の発言権も確保するところまでもってしまったから、ゴーンさんも腹を括った。前はフランス政府がくちばし入れられるのが嫌だったので、対抗措置の手立てを日産の中で作っていた。しかしゴーンさんは自分のクビを繋げる為というものができて日産を吸収合併しようと腹を括った。そのための手を打ち出したら、中にいる人たちが吸収合併は嫌だと反発してきた。あと困ったことは株主総会で叩かれたから、表面上の物は落としていって、後で報酬は貰うように、そして日本の法律に触れないように何度もケリーさんに確認をしたのでしょうけども、それを金融庁に相談をしたと思います。ここらへんで罨にはめられたなと思ったのです。日本の国は、官僚は、民間人に対して罨を仕掛けるものだと私は体で感じています。それでゴーンさんの給料と住まいですが、住まいはあちこちにある。日産が金を出しているが、仕事で使っているって言ったら問題はありません。ちょっと豪華な家だった。でも、その国の重要な人物を呼んでパーティーをしたわけでしょう。仕事で使っていると言えます。ただ一つ問題だなと思ったのは、お姉さんに年間1200万のアドバイス契約を結んでアドバイスを払っていた。でも、これもアドバイスをしたという書類が出てこないだけの話であって、しっかり姉からそういうアドバイス受けていますとゴリ押ししたら、そうだねって話になります。そうすると罪にならない。違法性は無い。抑えようとした最初は業務横領でしょう。特別背任でしょう。脱税でしょう。これらを表面化させようとしたけど、どうも立件が危ないから虚偽記載をやっただけの話です。ライブドアや西武がやられたのは虚偽記載です。日本の場合、そういう流れがあるというだけの話です。だからこれは今、綱渡りの状態。どっちに転ぶか分からないという類の話だと私は思っています。ただ、時代背景がフランス政府と日本政府で、日本の地検の動きを日本政府が黙認をしていると思う。地検はだいたい自分のストーリーを描き、そこに当てはめていく。今はそれに向かってストーリーを当てはめている最中でしょう。それから、証券取引所も虚偽記載であれば証券取引所が文句を言って然るべきだが、言わない。それからおかしいなと思ったのは政治家。世耕大臣がわざわざフランスに出かけて静かに見守るだけなんて、日本で言えばいいのになります。どんどん情報が出てきますが、日本は司法取引をやりたいのでしょうか。司法取引という制度を日本の中に定着させたいがために飛びついた。3人ほど司法取引で名前上がっています。新聞に名前は出ていませんが、週刊誌には名前が出ています。その司法取引も、ちょうど良い時代の流れだった。こうやって見ると、いろいろ問題になっているところを詰めていくと日本政府が関わっていて、日本政府は是認している。なぜ是認するかと考えると、日産がフランスのルノーに吸収合併されたら、これはうまいぞと思って出てくる人たちがいる。来年以降、雪崩を打って日本の国の主要企業が買収されたらかなわぬ。これだけ税金が入らないにも関わらずということです。そうしますと、表面に出てきてないが日産の中で政府と繋

がっている人はいますね。誰が繋がっているかと思いませんか。…想像ですが、官房長官がでませんか。官房長官のところで、だいたい抑えたり出したりしている。あそこでコントロールをしていると私は思うのですが、日本政府の中でも司令塔がいるはずですよ。

そうになるとね、さっき言った日本の国の少子高齢化ってありますでしょう。これ日本政府が青くなって、人材拡充のために外国人を入れようとしています。外国人を入れるのには、まあ問題がありすぎることありすぎること。例えば、今シムックスでベトナム人の学生 25 人を人材派遣の分野で受け入れています、彼らは 28 時間しか働けない。細切れでしか働けない。とても不便な法律です。法律を変えれば良いってことですが、目先でしか考えていないから、5 年、10 年の目先で外国人を入れようとしている。ところが 100 年経ったら、どうなるか。その人たちが日本で結婚して子供を産んで生活をすれば、移民大国です。移民大国をさらに合法的にしようということだけれども、問題が現場の中では続出しています。

以前、私が農業法人を立ち上げていることを申し上げましたが、今月の 2 日に農業法人の役員会を行いました。その時に農家の方は、今までは自分でお米を作りたいと思うと、お米を作って収穫してモミは残す。そのモミで次のお米を作るサイクルだったのが、今度は駄目ですと言う。種は種会社から買わなきゃいけない。自分の手で次の農作物を作ることができなくなった。それは法律が変わったからです。自分が収穫した種で次の農作物を作っていくことができない。日本の種苗会社を外資が買いたいと思えば買える状況下ですから、はっと気がつく、来年以降は遺伝子組み換えの農作物はとって代わられる恐れはともある。いま農家は当然それで青くなっています。コストアップで 2 割から 3 割上がります。

それから中斎塾フォーラムの顧問をして頂いている矢野弾先生が発行している雑誌カレントの今月号で、国連に 5 年間勤めて 40 年間水に関していた吉村さんという人の記事があります。今回カレントの集まりがあり、隣に座ったのが水の記事を書いた吉村和就さんという人で、お喋りをしていたら、日本の水の事業に外資が入ってきたいという要望がアメリカを中心にしてかなりある。それを受けて、日本政府は水が民営化できるように法律を改正した。現時点では、水の事業は日本の民間事業者が水の仕事を受け入れています。ただ特区がそういうものの温床になっていると思います。ということで、日本の水道事業が民営化されて、その事業体を外資が買い占めるという流れができています。はっと気がいたら、家の水道代が上がって困る。それは外資に文句を言わないと駄目だという話になってきます。これは誰がやったかって言ったら政治家です。農業も外国人ビジネスもそうでしょう。さっき現場で困っているという話でいきますと、介護も困っています。介護の現場では人が足りないという話だけれども、何で足りないのか。お給料が少ないからだと言います。

私の実感ですが、私が経営している会社が県庁にガードマンを入れていました。県庁ができた時から一貫して入れていましたが、県庁側はガードマンの積算をしないで勝手に、



勝手にというのは、県庁が発注主だから、嫌だったら受けなきゃよいのですが…最初に高い金額で発注したとしますでしょう。翌年は、いま県が苦しいから前年対比 2 割減で予算を組む。仕事の内容は同じで 2 割減。それで何とか民間企業はやり繰りをして仕事したら、仕事ができたとすることで来年も 2 割減。仕事の中身は関係ない。それでも仕事をしている会社は合法的に人を減らす。だが、段々と合法違法すれすれのところまでやらなきゃ出来ない。ちょっと苦しいって声が聞こえたから、次は 1 年減にしましょうと毎年金額を下げる。民間企業はこの金額では駄目だと辞退を始める。辞退すると少しまた金額が上がる。アホな話だと思う。これが官僚の悪いやり方で、そういうのを見て大きくなった企業も似たような事をしていた。これも実体験で、イオンという会社があります。私はイオンの株主総会に出ていましたが、数年前から行かなくなったのですが、行かなくなった理由は、社長が目上から物を言い始めた。取引業者は言うことだけを聞いていれば良いって言い方になった。この会社は先々転ぶぞと思ったから、もうここは付き合いなくてよいと思った。イオンという会社は子会社をいっぱい作っていて、イオンディライトは警備業全体を対応する子会社で全国の警備会社とやりとりをするのですが、そこが最近グブアップして、イオン本体から貰うお金で警備会社に払う部分が逆ザヤに変わってきたから直接親会社とやってくれませんかということです。もうこのままだと逆ザヤが拡大してどうにもならない。ということで、あちこちの警備会社はイオン離れが進んでいる最中です。金で横っ面ひっぱっていた時代は終わりです。時代が変わったことを、イオンの上層部はわからないのだろうと考えています。でも、もっと鈍感なのは官僚です。郵政だって同じです。郵政も民営化してから値下げをしています。郵政も仕事の中身は変えないけども値段だけはどんどん下げる。嫌だったら今のうち辞めてくれと、かなり前に公表しています。だいぶ離れています。でも公表するだけ、まだ良心的です。ただ、介護はけしからんと思います。介護方針の見直しを 3 年に 1 回で行いますが、だいたい見直しのたびに 20%は下げて、仕事の中身は増えています。新聞には、介護の人たちの給料を上げるために、こういうことを考えた。ああいうことを考えた。これで介護業界の人件費は上げるから給料が増えますと、お先棒担いで書いたメディアは酷いと思う。実際、現場では、今度こういう条件緩和と出して、この条件をクリアしたら、また次の条件と色々な条件を出されて、それらをクリアしていくと初めて政府が言ったお給料を少し上げますという部分にたどり着くことができる。長い道のりを作り、また落とし穴をいっぱい作るから介護業界は倒産ばかりになっています。倒産しない事業所は、他の仕事をしている大きな介護事業者です。他で稼いだものを介護の現場にお金をつぎ込んでなんとかやっている。それから現場の人たちがもう必死になってなんとかこなすが、どうにもならないとダブルワークといって、他の仕事もしている。介護の仕事を離れたくないから他の仕事をして本来の介護の仕事を続けていく。今その限界がきているのが現状です。ということで政府は嘘つきだと思う。これは私が介護を実際に経営している実感です。何でそうなっているのか。政治家が本物ではなく、鈍感だからです。

日本は外資の攻勢にさらされています。他の国から外資が入ってくるように一所懸命に法律を次から次に作って、どうぞとやっているのが今の日本の政治家の現状。私は、日本政府は裏から何か貰っているのではないか、外資と日本の政治家は癒着しているのではないかと思う。各政治家の背景を調べる必要があると思っています。日本の政治家の一覧表を作って、日本の政治家で日本国籍の前の国籍はどこだったのかとか、日本国籍はいつ取得をしているのか。それから、収入はどこから得ているのか。親族はどういう親族がいるのか。血族関係というのは凄いのがあるから。それで判断するとき、その人が何をやってきたが分かるような一覧表。政治家の実態をえぐり出す必要があると思います。一番気になることは、どこで稼いでいるか。今いったい税金からいくら貰っているのかということ、やる必要がある。ということで、外資にさらされている日本という国。その中で政治家は何をするべきなのかということ、ゴーン事件は示唆していると思います。ゴーンさんは甘く見たんですよ。日産社員の辛さ、吸収合併されることの辛さ。決して本人は悪いことをしていると思っちゃいません。だからフランス政府の思惑に乗って、日本政府の仕掛けた罠に引っ掛かっているだけだと思う。カルロス・ゴーンは生贄になっているんじゃないのかなと思います。だって本人悪いことしてないと思ってる。20億円貰おうが30億円貰おうが屁でもないと思ってるんじゃないですかね。ただ強欲すぎるから…周りで強欲すぎると思われるようなやり方をしているということです。これから世の中に出ていない物が、目に見えない物が出てくると思います。それで息の根を止められるのだらうと思います。そうすると今度はゴーンさんの生き様はどうか。生まれた時や小さい時は貧困生活をおくっていたとあるから、それが今の状況に反映しているかだと思います。カルロス・ゴーンについては、ここらへんまでにしますが、これから日本の司法制度は変わらざるをえないところに一回くるのだらうと思っています。日本の司法制度というのは他の国と比べて結構いいものだと思いますが、やっぱりあちこち抜けています。

先ほど「本物は」と言いましたけれど、木内先生の科白で「本物は簡潔明瞭が良い」

木内先生は「哲学とは物事を根本から考えることを哲学と言います。悟りは言葉で表現できません。それから、宗教は信仰するものではありません。わかるものです。仏教は知識ですね。知能宗教です。仏教は知能宗教です」先程の中山さんの書かれた本を回しました。ということで、そういう色々な物を見ると、自分が疑問に思っている物は何か一言で表現できるように、人様に伝えたいと思うものは一言で伝えられるように、我々は努力をしましょ。ちょうどお時間ですね。どうぞ良いお年をお迎えください。